



Vol.11



ゆうことみゆきのふくふくトーク

# ソコ de ソコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた  
本田優子(札幌大学副学長)と  
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、  
その魅力をソコ(=お便り)形式で  
語り合います。

イラスト/安田千夏

## コタンコロカムイ(シマフクロウ)



最近、私の中に、コタンコロカムイが棲みついているの。きっかけは、昨秋

のウレシバ・エスタ。私が会長を務める札幌大学ウレシバクラブの年間最大のイベントで、基調講演は横内龍三(北洋銀行)の「コタンコロカムイの眩(くら)ぎ」でした。実は横内会長は知る人ぞ知るシマフクロウ博士。本当に素晴らしいお話で、それ以来どうもヤラれちゃったみたい(笑)。

そもそもアイヌ文化では鳥も獣もカムイ(神)だけど、「村を守護する神」という意味のコタンコロカムイは、鳥の中ではずば抜けて位の高い神なの。でも、どうしてシマフクロウが村を守るのかって？実は私もよくわからないんだけど、一つには、暗くて怖い夜、あ



の威厳に満ちた姿で目を光らせている姿からイメージされたんだろうって言われている。もう一つは、シマフクロウの保護活動をしている方から聞いた説だけど、個々のシマフクロウのテリトリーと、かつての二つの集落の活動圏とがだいたい一致していたんじゃないかって。つまり、近くにいつも同じシマフクロウのペアがいるので、まるで自分たちを守ってくれているかのように感じたのかもしれないね。

アイヌの人々から愛され尊敬されていたコタンコロカムイは、カムイチカブ(神の鳥)とも呼ばれ、たくさんのお話や芸能に登場しているの。たとえば浦河地方に伝承されているコタンコロカムイの踊りは、「フムフム」という独特の掛け声となんともいえないユーモラスな動きがとても魅力的！  
美幸さんはコタンコロカムイ、いかが？



コタンコロカムイの声だけは毎日聞いているんだよね。事務所の真下にある展示室のジオラマ

中央にある大きな木の洞にシマフクロウが留まっているの。「フムフム」と体いっばいに響く重低音の鳴き声を日に何度か聞いているから、結構身近な鳥だと



コタンコロカムイ  
シマフクロウ

るまわりに、金のしずく降る降るまわりに」という、とっても美しい響きのサケへ(折り返しの詞)で語られるお話。悪をくじき、弱きを助けるといいうお助けカムイ。位の高いカムイだから当然といえば当然か！

思っていたんだけど、実は一度も野生のコタンコロカムイを見たことないんだよね。  
豊かな環境のシンボルといわれるコタンコロカムイ。羽根を広げると二メートル近くもあるから、巣をつくるのに樹齢三百年以上もある大木が必要なんだとか。昔はそんな木、北海道中のどの森にもあったんだけどね。森林の伐採や開発、人間の都合で生息域が狭められ危機に瀕している今、私たちの手で森の再生を考えていかなきゃね。

アイヌの物語の中のコタンコロカムイは正義の味方というのが私のイメージ。知里幸恵さんの『アイヌ神謡集』の「梟の神の自ら歌った謡」では、みすばらしく貧乏であっても、人としての礼儀と品を備えた者の味方となり、弱い者をいじめる奴らをあつと言わせるの。人間の本性を見抜く力を持つカムイの中のカムイ。「シロカニベ ランラン ピシカン、コンカニベ ランラン ピシカン(銀のしずく降る降るまわりに、金のしずく降る降るまわりに)」

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌの子供達へのアイヌ語教育に携わる。

■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。(財)アイヌ民族博物館 専務理事。先住民族アイヌの一員として、アイヌ文化伝承と普及啓発活動に努める。